

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：17501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13503

研究課題名（和文）小学校図画工作科と外国語活動の教科融合型学習の研究

研究課題名（英文）Development of Teaching Materials and Methods for Integrated Learning Between Foreign Language Activities and Art and Handicraft

研究代表者

藤井 康子（FUJII, YASUKO）

大分大学・教育学部・准教授

研究者番号：10608376

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）： 諸外国における美術教育と英語教育を統合したCLIL教育の先行事例や現状と課題等の調査を行い、日本の教育課程で実践可能な図画工作科と外国語活動の融合教育のための指導法や評価方法、教科書教材やICT教材等の効果的な運用方法について検討を行った。CLIL教育の学習理論を援用し、図画工作科の学習内容における言語活動をグローバルな視点から広げ、深めていく英語表現を取り入れた学習教材を開発し、教育実践を通してその学習効果を検証した。小学校低学年から高学年までの図画工作科と外国語活動の教科融合型学習の学習モデルを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

美術教育と英語教育を統合した諸外国のCLIL用教科書の内容構成及び指導法、評価の観点、授業での活用方法等の分析を進め、英語教育を取り入れた図画工作科教育の内容・指導法の研究に対する基盤的貢献が可能となった。

加えて、CLIL的アプローチを取り入れた図画工作科と外国語活動を軸とする教科融合型学習教材を提案することができた。小学校における英語教育と他教科との教科融合型学習の在り方に対し一つの方向性を示し、授業への応用を示唆することができた。

研究成果の概要（英文）：This research tried to realize development of Art and Handicraft Education and the way in which elementary school children can learn English in a more interesting way through Art. This study focused on CLIL educational theory and teaching methods that is widely prevailed among present foreign countries for cultivation of artistic skill, creativity, and English ability together in the Art and Handicraft classes. And I clarified the meaning of Japanese art and handicraft education which is introduced foreign language activity and developed teaching materials for elementary school teachers with research collaborators.

研究分野：美術科教育

キーワード：図画工作科教育 外国語活動 CLIL教育 教科融合型学習

1. 研究開始当初の背景

平成 20 年改訂学習指導要領解説小学校外国語活動編では「他教科等の学習成果を活用して指導の効果を高める」ことを目的として「図工を通じたコミュニケーション活動」の内容が導入されている。文部科学省は「教育課程企画特別部会論点整理(平成 27 年 8 月)」の中で、育成すべき資質・能力や各教科等の相互の関係性が一層求められていると強調した。図画工作科は、自分の感覚や行為を通して知識・技能とともに児童の思考力・判断力・表現力や鑑賞の力等を育成する教科であり、視覚言語(Visual language)や作品を通じたコミュニケーション能力を高めるためには言語表現に対する鋭敏な感性と発信力を養うことも求められる。外国語活動の観点からみると、グローバルな視点を持って活躍していく児童の育成には、自己理解・他者理解を深めることに加え日本固有の美術文化を理解し、異なる文化を受容しようとする学びの姿勢も重要である。視覚言語と 2 言語(Languages: 母国語 + 外国語(英語))が結びつくことで、双方の能力を相乗的に高めることを実証していく研究が必要とされる。

2. 研究の目的

図画工作科における視覚言語と 2 言語(母国語 + 外国語(英語))を駆使して、表現活動に取り組む図画工作科と外国語活動の教科等融合型学習の開発・実践を行い、それらの検証結果を基にして、評価方法を開発し、小学校における学習モデルを構築することを目的とする。国内ではまだ先行事例が少ないので、西欧を中心に導入されている母語以外の言語を使い教科内容を学ぶ実用的な英語教育である CLIL(Content and Language Integrated Learning)に関する現況調査と最新の教科書及び授業資料等の調査を行い、それらの分析結果も踏まえ児童の発達段階を考慮した学習教材及び指導法の開発と授業実践を通じた学習効果の検証に取り組む。

3. 研究の方法

諸外国における視覚言語と 2 言語(母国語 + 外国語(英語))の CLIL 教育や教科融合型学習に関する現状、成果と課題等の先行事例を調査し、幼稚園、小学校、中学校等を訪問し、美術教育と英語教育の融合教育における指導や評価、教科書や ICT 教材等の運用等についての検討を行う。日本の小学校における児童の発達段階を考慮した学習教材の開発と実践・検証を行うことによって、我が国の教育課程に合わせた学習モデルの構築、指導法と評価方法の開発を行う。

4. 研究成果

(1)ヨーロッパ・アジア 4 カ国の教育機関及び小学校の調査:以下の国々を選定し、国内の研究協力者及び現地の研究協力者の協力を得て、スペインを拠点としてイギリス、ドイツ、台湾における現状・展望と課題を調査した。

スペイン・マドリード州の公立のコロンビアバイリンガルスクール、アルデバラン学校、タラベラ美術学校を視察し、学校長及び教職員に対し教育課程の編成や英語で他教科の内容を教えるバイリンガル教育の指導法等に関するインタビュー調査を行った。アルデバラン学校では、現地協力者の支援を得て、スペイン人の小学生に対して日本で開発した CLIL 用教材を用いた図画工作科の授業実践も行き、本研究で提案する図画工作科と外国語活動の教科等融合型学習の効果について検討した。

加えて、マドリード自治大学の教員養成学部において実施された国際美術教育セミナー等において、CLIL 教育の学習理論を援用した図画工作科教育の提案についての講演を行い、美術教育を専門とする研究者や大学生との研究交流を行った。

イギリスの西イングランド大学を拠点として、バートン・ヒル・アカデミー、メイ・パーク小学校や教育機関を視察し、授業観察や教員へのインタビュー等を通して移民の児童たちに対する英語教育や美術教育の現状と今後の動向に関する調査を行った。

ドイツ共和国・ノルトラインヴェストファーレン州デュッセルドルフ及びバーデン＝ヴュルテンベルク州ハイデルベルクにおいてリグニッツ基礎学校、カール・デュイスベルグ・ギムナジウム校、ウィルケンシュレ基礎学校、ハイデルベルク大学、教育行政機関を視察した。学校では美術と英語の授業観察や学校長及び担当教員へのインタビュー等を行い、英語教育と美術教育の現状及び今後の動向についての調査を行った。

アジアについて、国内研究協力者とともに台湾・台北市を訪問し、台北市立大学、公立学校である臺北市立南門國民小學、バイリンガルスクールである臺北市北投區文化國民小學等を視察した。英語による美術の授業やアートプロジェクトの発表会等を参観し、台湾における近年の英語教育改革の動向と美術教育の現状について調査を行った。

(2)CLIL 用教科書や副教材等の資料の収集と分析:諸外国における現行の CLIL 用教科書や副教材等を収集し、教科融合型学習の教科書の内容構成、指導法、評価方法の分析に加えて、授業での ICT の活用方法の観点から教材の分析に着手した。西欧の多言語文化社会において展開される美術教育と第 2 言語(英語等)の融合教育に対する教育観も踏まえながら、本研究が提案する

教科等融合型学習への援用方法について検討した。視覚言語のうち造形言語（基本要素は形・点・線・面、色、素材）と2言語（母国語+外国語（英語））を対応させ、双方の思考力と表現力の相乗的な発達を促す指導法についても検討した。

（3）教材開発と学習モデルの構築：国内研究協力者6名とともに小学校図画工作科と外国語活動の現行使用教科書や副教材の学習内容について検討を行い、造形遊びや絵に表す活動、立体に表す活動、鑑賞活動を英語も用いて楽しく効果的に学ぶことが出来る題材を選定し、ICTの活用も含めたCLIL教育のオリジナル教材を開発した。研究協力者が所属する小学校の図画工作科と小学校外国語活動の授業において教育実践を行い、学習教材と指導法を検討する授業研究会を実施しそれらの効果検証を行った。パフォーマンス課題の評価方法として教科融合ループリックの検討も行った。教育実践を通して図画工作科と小学校外国語活動との融合型学習を行うことの意義が示唆された。

開発したCLIL教材と学習モデルは下記のとおりである。

小学校1年生対象 立体に表す活動「Let's Have a Special Party! ごちそうパーティをはじめよう！」（全2時間）

粘土でつくりたい食べ物の形を思い浮かべ、できた形から想像を広げてごちそうを表現する活動の過程や作品鑑賞の時間に、自分や仲間が作ったごちそうについて尋ねる英語表現「What's this?」を使い、「It's ~.」でその内容を伝え合う活動や「It looks delicious! / good!」, 「That's beautiful/wonderful/great.」等の英語表現を使ってお互いの良さを認め合う表現を取り入れた学習モデルを構築した。

小学校2年生対象 造形遊び「ひろがれ模様! Circle, Triangle, Square で表す気持ちの形」(全2時間)

幾何学的な形や色彩を表す英語表現に慣れ親しみながら、円や三角形、四角形といった幾何学的な形からイメージを広げ、様々な形を並べたり積み重ねたりして自分たちの思いや考えをグループで表現する学習モデルを構築した。

小学校2年生対象 絵に表す活動「歌川国芳のふしぎなせかい」(全2時間)

本題材は、日本の美術文化を知りその良さに気付くこと、様々な形と色を組み合わせた表現を行うことを通して自分や他者の表現上の工夫を見つけ、お互いにその良さを認め合うことを目的として開発したものである。表現活動では形や色を表す英語表現、鑑賞活動では「What's this?」、「How many ~?」を使った英語表現に慣れ親しむ学習を取り入れた学習モデルを構築した。

小学校3年生対象 絵に表す活動「色・形 いいかんじ! ~My Favorite Colors and Shapes ~」(全2時間)

授業の導入段階において英語のA~Zまでの26文字のアルファベットが持つ音の面白さに触れさせ、アルファベットの音や形からイメージを広げて、水彩絵の具を用いて「自分の思い」を表現する学習モデルを構築した。アルファベット文字の音、形、水彩絵の具による色彩表現を組み合わせた学習モデルを構築した。

小学校4年生対象 光を使った造形遊び「What's this? 光とかげから生まれる形」(全2時間)

光を透過する様々な材料や身体を使って出来る影の形や色を組み合わせ、グループで影絵を表現する活動に英語表現を導入した学習を開発した。表現の過程において「Can I have ~? - Here you are.」等の英語表現を使う場面を設定し、鑑賞活動では「What's this? - It's ~.」 「Good job!」や「That's beautiful/ wonderful/ great.」等の英語表現を使ってお互いの表現の良さを認め合う活動を取り入れた学習モデルを構築した。

小学校6年生対象 絵に表す活動「はさみと紙を使ってMy Best Memoryをあらわそう!

「Let's Express My Best Memory by Using Scissors and Papers!」(全6時間)

本題材は、身のまわりにある紙や色紙をはさみで自由に切り抜き、出来た形と色の組み合わせ方を工夫してコラージュすることを楽しむ絵に表す活動である。外国語活動との融合を図るため、外国語活動で既習の単元「My Best Memory」を表現のテーマをとし、児童に小学校生活の中で最も印象的な出来事の中から主題を設定させるようにした。既習の英語表現(年間行事や感情を表す表現)の復習も行いながらそれぞれの「My Best memory」を形と色で抽象的に表現し、英語も使って他者に伝え合う学習モデルを構築した。

以上、図画工作科の学習内容における言語活動をグローバルな視点から広げ、深めていく英語表現を取り入れた授業を通して、児童が双方の資質・能力を高めていく小学校低学年から高学年までの教科融合型学習の学習モデルを構築した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤井康子、岩坂泰子、樋口和美、水城久美子	4. 巻 43
2. 論文標題 図画工作と外国語活動の融合型授業の開発と実践の考察ーアルファベット文字の形と音から主題を生み出す絵に表す表現ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 173 ~ 188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井康子・東奈美子・岩坂泰子	4. 巻 53
2. 論文標題 図画工作科と外国語活動を軸とした教科融合型学習の開発と実践 - 6年生のMy Best Memoryを絵に表す活動を通して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 209 - 216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口和美・藤井康子	4. 巻 9月号
2. 論文標題 英語でときめく造形活動～美術作品の鑑賞を生かした表現の試み～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育美術 ART in EDUCATION	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口和美・藤井康子	4. 巻 51
2. 論文標題 英語活動を取り入れた図画工作科の授業開発 美術作品の鑑賞を生かした表現の試みー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本美術教育研究論集	6. 最初と最後の頁 pp.157-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤井康子
2. 発表標題 台湾、スペイン、イギリスの英語による図画工作科教育からの日本への示唆 - 現地の小学校の現状調査から -
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会(JES)北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤井康子・東奈美子・岩坂泰子
2. 発表標題 図画工作科と外国語活動の教科融合型学習の開発 - 6年生での絵に表す実践の成果と課題 -
3. 学会等名 第58回大学美術教育学会岐阜大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤井康子・岩坂泰子・水城久美子・樋口和美
2. 発表標題 図画工作科と外国語活動の教科融合型学習の開発 - 3年生での絵に表す実践の成果と課題 -
3. 学会等名 美術科教育学会 第42回 千葉大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井康子・東奈美子
2. 発表標題 CLIL的アプローチによる外国語と図画工作科の融合 - 異文化理解につながる教材開発の試み -
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会(JES)長崎大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuko Fujii
2. 発表標題 Development of Teaching Materials and Methods for Integrated Learning between Arts and Crafts and English Education Introducing CLIL Teaching Method in Primary Education
3. 学会等名 Art Conference 2019 in the Art Department of The Universidad Autonoma de Madrid (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樋口和美・藤井康子
2. 発表標題 英語活動を取り入れた図画工作科の授業開発 - 美術作品の鑑賞を生かした表現の試み -
3. 学会等名 第51回 日本美術教育研究発表会2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤井康子・樋口和美
2. 発表標題 教科書題材に英語活動を取り入れた図画工作科の授業開発
3. 学会等名 第40回 美術科教育学会滋賀大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 二宮 皓 (著, 編集)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 世界の学校	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大分大学 教育学部 藤井康子研究室 小学校図画工作科と外国語活動の教科融合型学習の研究
<http://arts-crafts-clil.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 “Content and Language Integrated Learning and the Role of Languages ”	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------